

新たな一年がスタートしました。本年も丸の内病院スタッフ一同
精進してまいります。2018年も何卒宜しくお願い致します。

丸の内病院 連携室だより

＼ご自由にお持ち帰りください／

～掲載内容～

- 新年のご挨拶
- 赤ちゃんからのスキンケア

発行責任者：中土幸男

発行年月日：30年1月30日



撮影：丸の内病院 写真部



～丸の内病院 理念～

- 1、私たちは、医療・介護における安全を重視し、患者さんを支える医療・介護を地域の医療機関と協力して推進いたします
- 2、高度の専門技術により、地域の皆さまの疾病管理と疾病予防に努力いたします
- 3、公益性を有する社会医療法人として、公正・適切な診療活動を実践します
- 4、医療・介護領域の教育研修を通じて人材育成を積極的に支援し、医療・介護の発展に寄与します



新年のご挨拶



院長 中土 幸男

新年、明けましておめでとうございます。平成 30 年もどうぞよろしくお願いいたします。今年「平成」が 1 年間ある最後の年であり、来年 4 月末で平成は終わります。また、明治維新から数えて 150 年に当たる年でもあります。当院は 2007 年に当地に新築移転してから、今年が 11 年目に当たります。今年を新たな 10 年のスタートの年にしたいと思っています。年頭に当たり、医療を取り巻く状況を俯瞰し、当院のこれからの方向性について考えてみたいと思います。

日本の少子・高齢化はますます進み、人口の多い“団塊の世代”が 2025 年までに 75 歳以上の後期高齢者に達します。これによる介護・医療費など社会保障費の急増が懸念される「2025 年問題」が 7 年後に迫っています。2030 年には年間の死亡者が約 160 万人に達する「多死社会」を迎えます。その死亡原因をみると、がんが急激に増加し断トツの 1 位、次いで心疾患、肺炎、脳血管疾患、老衰の順となっています。今や、がんは平均すると 2 人に 1 人がかかり、3 人に 1 人が死亡する疾患であります。そのような中、政府は社会保障制度改革において、「子ども・子育て」と「医療・介護」の充実を重点項目に挙げています。医療・介護では「病院完結型」から「地域完結型」への転換、地域ごとに地域包括ケアシステムを構築すること、さらに健康増進、疾病予防と早期発見等の促進などが提唱されています。

抱生会は、医療はもとより、介護、および疾病予防や健康増進の分野において、地域にどのように貢献してゆけるかという視点に立ちながら、これまで積極的に取り組んできました。少子化の中、丸の内病院の持つ周産期医療は今や貴重な地域の医療資源となっています。当院の母子医療センターは今後も地域中核病院の産科や小児科からのご支援を受けながら維持されなければなりません。「まるのうち保育所」（院内保育所）に隣接して建築中の「病児保育施設」は今年 4 月に業務を開始し、地域の病児を受け入れてゆく予定です。このように抱生会は周産期医療だけでなく、子育てまでも含めて関わってゆく所存であります。子ども・子育て支援は地域全体で守ってゆくという考えが必要だと思っています。

丸の内病院は病床数が 199 床で、中規模病院に分類され、基本的には地域のかかりつけ医機能が期待されています。全国の約 8,600 病院のうち、当院のような 200 床未満の病院が病院全体の約 7 割を占めています。地域における自己の立ち位置（役割）を明確にしなければ、今や病院は存立できません。当院は地域密着型診療、すなわち、かかりつけ医機能を基本とし、そこに専門特化領域の診療を融合させながら地域に貢献するという、これまでの姿勢を今後も堅持してゆきます。今年 4 月に診療報酬と介護報酬の同時改定が行われます。病床機能再編への加速と地域包括ケアシステムの徹底が基本となると思われます。当院の中期再開発計画として、緩和ケア病棟の増築・病床転換と院内狭隘化対策として院内設備の再配置計画（事務部の一部移転、メディカルフィットネス開設など）を立案してきました。いよいよ今年それらを実行に移します。職員が一丸となって、さらに地域に貢献してゆきたいと願っています。

今年が皆様にとって充実した幸せな年となりますよう祈念し、年頭の挨拶といたします。今年もよろしくお願いいたします。

違った自分に出会えるかな



診療部部長 山崎 秀

あけましておめでとうございます。

今年はオリンピックイヤーです。小平奈緒選手を始め多くの有望な日本人選手の活躍が期待されます。特に小平選手の実力は別次元といってもよいでしょう。それなのに彼女はまだまだ自分を高めなければならないと言います。先日TVのインタビューでリオ五輪柔道金メダリストの大野選手はさらに技を磨き「違った自分に出会いたい」と言っていました。そういえばタベのテレビ番組では乃木坂46の新曲に「違う自分になろうとしてたんだろう」というフレーズがありました。違う自分といってもあまりピンと来ない方もいらっしゃるかもしれませんが、私には何となくわかります。昨年久々にアメリカリウマチ学会で発表した際、自分で言うのも何ですが、3ヶ月間ほど受験生になったように猛勉強をしました。まだまだ拙い英語力でしかありませんが、海外の先生方とお話できたことが大変うれしく、少し違った自分に出会ったような気がいたしました。昨年両膝人工関節置換術を受けられたまだ若い女性リウマチ患者さんは、最近エスカレーターデビューをされたことに自信をつけ、海外旅行に挑戦したいと言っておられました。仕事でも趣味でも何でもよいと思いますが、1つのことに打ち込み違った自分に出会う、そんな夢を叶えられるような病院でありたいと思います。診療部は先頭に立って、皆様のお役に立てるような仕事をして参りたいと思います。皆様方のお力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。

本年が皆様方にとって幸せな1年となりますようお祈り申し上げます。

連携の年

地域医療連携部部長 石曾根 新八



連携医及び連携施設の皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様には、清々しく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、トランプ大統領の就任、北朝鮮の脅威、英国のEU離脱、豪雨災害、安倍長期政権の弊害など激動の年でありました。医療面では、少子高齢化が予想以上に急速に進行し、小児医療には一層の集約化が求められ、また病院の機能分化がすすみ、高齢者の救急対応の整備不足と在宅医療や施設介護、病院治療の連携不足が市民の皆さんに不安を与えているように思います。

今年は、地域包括医療体制の具体的な内容の整備のための「連携の年」と思います。すべての医療・介護関連施設が結集し、市民の為にベストのシステムを作りましょう。

近年、過労死が社会問題化されてきていることを受け、国は各企業に対し、職員のストレスチェックの実施を義務づけました。いくつかの企業で産業医をしていて気づいたことをお話しします。どのような企業でも高ストレス者のいる部署はあります。仕事の質の高さが求められる部署（経理関係の部署、接客・接客関係の部署など）、仕事の量が多い部署（製造部門・連携部門など）は、時間外勤務も多くなり、高ストレス職場となりやすく、早期の対応が必要となります。

仕事の質の高さを求められる部署では、仕事を細分化し個人の責任を少なくすることや可能であれば上司の支援が有効な場合もあります。また、仕事の量が多い部門では、業務の合理化、手順の見直しなどが有効です。しかし、高ストレス者との面談では、ほとんどの人が、ストレスの原因として人間関係の不具合を挙げています。職員は、企業の成功は自分や家族の為と考え、仕事の忙しさや負担感は大きなストレスの原因ではなく、周囲の仲間からの理解不足こそ、ストレスを大きくする要因となっています。私たち医療の現場にいる人間は、常に人の生命に関係する仕事にかかわっておりますので、全員が高ストレス者に入ると思われます。お互いの仕事をよく理解し、お互いを付度しあい、手を差し伸べあって相互に連携してストレスを分散させることが肝要と思います。

赤ちゃんからのスキンケア



小児科 加藤 重人

「赤ちゃんのようなスベスベ・モチモチの肌になりたい！」こう思っている女性は案外多いようです。でも残念なことに、赤ちゃんの肌は多くの皆さんが思っているような理想的なものではありません。赤ちゃんの皮膚は薄くデリケートで、よだれや汗も多くかぶれやすい特徴をもっています。こどもの皮膚はニキビができる年齢（生後1ヶ月前後から3ヶ月くらいまでと思春期）を除いては、大人に比べて皮脂の分泌が少なくカサカサしやすい特徴があります。カサカサしている肌はかぶれやすく、かぶれた皮膚に食べ物やほこりなどがつくことで、アレルギーが出現しやすくなります。そこで必要なのが洗浄と保湿を中心としたスキンケアです。皮膚を洗う際に荒れた皮膚をタオルで強くこすると皮膚がさらに荒れてしまいますので、石鹸をよく泡立て手でやさしく皮膚を洗うことをお勧めします。また、首・脇の下・足の付け根は汚れが残りやすいので、意識して洗うようにします。石鹸の使用を推奨しない人もいますが、石鹸を使わないと皮脂や保湿剤に付着した汚れはうまく落ちません。これは食器を洗うときに洗剤を使わないと油汚れが落ちないのと同じです。きれいに洗ったら次は保湿です。特に入浴後に保湿剤を塗るのが効果的ですが、それ以外の時もカサカサを見つけたらこまめに塗ってください。塗るものはワセリン・ベビーオイル・保湿剤などがあります。「保湿剤は何がいいですか？」とよく聞かれますが、誰にでも合う保湿剤はありません。薬局・雑誌・インターネットサイトなどでサンプルをもらえる場合がありますので、サンプルを試して合うものを使用するのがお勧めです。



地域医療連携部 方針

1. 地域の医療・介護・福祉との連携を円滑にし、患者さんの治療・療養生活をシームレスに保つよう支援します。
2. 地域連携施設と診療情報を共有したネットワーク作りをすすめます。
3. 院内連携をシステム化します。

丸の内病院 地域医療連携部(地域医療連携室・退院支援室)
TEL:0263-28-3010(直通) FAX:0263-28-3011(直通)